

科目名	眼筋機能学特論			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 林 孝雄						
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	講義
授業の概要	眼筋機能の生理と病理について説明でき、眼筋機能異常としての眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療法に習熟できる。(オムニバス方式)						
授業の到達目標	① 外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常を説明できる。 ② 眼球運動障害の画像診断を説明できる。 ③ 上下回旋斜視の手術方法および量定を説明できる。 ④ 複視、眼球運動障害および眼振の検査と診断を説明できる。 ⑤ 眼球運動障害を伴う斜視として麻痺性斜視、筋原性斜視および機械的斜視の手術適応、手術方法の選択と量定を医師にアドバイスできる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	林 孝雄	教授	外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常 外眼筋の解剖、生理、病理は、眼窩壁や結合組織を含めて三次元的に捉えながら学習し、機能異常による眼球偏位を説明できる。			
	2	林 孝雄	教授	外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常 外眼筋の解剖、生理、病理は、眼窩壁や結合組織を含めて三次元的に捉えながら学習し、機能異常による眼球偏位を説明できる。			
	3	林 孝雄	教授	外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常 外眼筋の解剖、生理、病理は、眼窩壁や結合組織を含めて三次元的に捉えながら学習し、機能異常による眼球偏位を説明できる。			
	4	林 孝雄	教授	外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常 外眼筋の解剖、生理、病理は、眼窩壁や結合組織を含めて三次元的に捉えながら学習し、機能異常による眼球偏位を説明できる。			
	5	林 孝雄	教授	外眼筋の解剖、生理、病理とその機能異常 外眼筋の解剖、生理、病理は、眼窩壁や結合組織を含めて三次元的に捉えながら学習し、機能異常による眼球偏位を説明できる。			
	6	林 孝雄	教授	眼球運動障害の診断と上下回旋斜視の治療 眼球運動障害、特に上下回旋斜視の画像診断と手術方法および量定を説明できる。			
	7	林 孝雄	教授	眼球運動障害の診断と上下回旋斜視の治療 眼球運動障害、特に上下回旋斜視の画像診断と手術方法および量定を説明できる。			
	8	林 孝雄	教授	眼球運動障害の診断と上下回旋斜視の治療 眼球運動障害、特に上下回旋斜視の画像診断と手術方法および量定を説明できる。			
	9	林 孝雄	教授	眼球運動障害の診断と上下回旋斜視の治療 眼球運動障害、特に上下回旋斜視の画像診断と手術方法および量定を説明できる。			
	10	林 孝雄	教授	眼球運動障害の診断と上下回旋斜視の治療 眼球運動障害、特に上下回旋斜視の画像診断と手術方法および量定を説明できる。			
	11	林 孝雄	教授	眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療 眼球運動障害を伴う斜視および眼振に関して、その検査、診断、治療を説明できる。			
	12	林 孝雄	教授	眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療 眼球運動障害を伴う斜視および眼振に関して、その検査、診断、治療を説明できる。			
	13	林 孝雄	教授	眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療 眼球運動障害を伴う斜視および眼振に関して、その検査、診断、治療を説明できる。			
	14	林 孝雄	教授	眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療 眼球運動障害を伴う斜視および眼振に関して、その検査、診断、治療を説明できる。			
15	林 孝雄	教授	眼球運動障害と眼振の検査、診断および治療 眼球運動障害を伴う斜視および眼振に関して、その検査、診断、治療を説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 今回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、株式会社コームラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 6、眼科臨床に必要な解剖生理、文光堂、2005年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 25、眼のバイオメトリー、文光堂、2009年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート30%、口頭試問60%、授業内課題10% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。(ディプロマ・ポリシー2と3に相当する)						